Episode 蘇れ超執刀

4-9

Data

[患　部] 心臓
[バイタル] 80(99)
[手術時間] 05:00:00
[超執刀] ポイント発動



天羽博士を救うため、2度目の手術に挑む。目の前で苦しむ患者を助けるため、さらに症状が悪化した変異腫瘍の除去処置にひとりの医師として立ち向かう。

The patient's Life is in your hands !

1 切開　E・N 04:54:61　H 04:54:86
バイタルを99まで回復し、腹部を消毒して切開
(バイタル回復→P33、切開→P34)

2 心臓の処置1　E・N 04:00:73　H 03:54:90
鎮静剤(黒色の液体)を投与し、中毒症を沈静化させる(中毒症→P40)

3 青色になった変異腫瘍の組織液を吸引
(変異腫瘍→P46)

4 赤色に点滅するまえにガイドラインに沿って変異腫瘍を切り離す(変異腫瘍→P46)

5 3、4の手順で変異腫瘍を1ヵ所切り離す
(変異腫瘍→P46)

6 切り離した変異腫瘍×2を青色のときに除去する
(変異腫瘍→P46)

7 追加トレイにある人工膜を切除痕×2に乗せ、定着させる(変異腫瘍→P46)

8 バイタルを70付近まで回復
(バイタル回復→P33)

9 3～8の手順で変異腫瘍×2を処置する
(変異腫瘍→P46)

10 3～8の手順で変異腫瘍×2を処置する
(変異腫瘍→P46)

11 心臓の処置2　E・N 03:55:78　H 03:51:40
新たな変異腫瘍が出現するイベントが発生

12 超執刀を発動させる

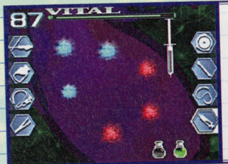
13 変異腫瘍が青色になるまでバイタルを回復
(バイタル回復→P33)

14 3、4の手順で変異腫瘍を切り離す
(変異腫瘍→P46)

15 追加トレイにある人工膜を切除痕に乗せ、定着させる(変異腫瘍→P46)

16 閉創　E・N 03:49:30　H 03:43:94
切開した部位の閉創処置を行なう
(閉創→P35)

The patient is saved !



2
前回同様、中毒症が閉創処置に進むまで一定間隔で発生する。心臓が変色し始めたら鎮静剤を投与しよう。



3
HARDでは、つねにバイタルを回復し、70前後をキープさせおき、変異腫瘍が青色に点滅するのを待とう。



4
HARDでは、バイタルの低下が速いため、患部をひとつずつ処置し、人工膜を定着させて治療しよう。



14
超執刀発動中は、変異腫瘍が点滅しているときに処置すると「Miss」になる。必ず青になったときに処置。

SPECIAL BONUS

No	SPECIAL BONUS 獲得条件	EASY	NORMAL	HARD	獲得スコア
1	Miss 判定無し				700
2	○○○秒以上残して手術終了　※	120	150	180	400
3	ガスを発生させない				500
4	バイタルを○○以下に下げない	15	25	50	400

※分表示では、EASYが2:00、NORMALが2:30、HARDが3:00

OPERATION RANK

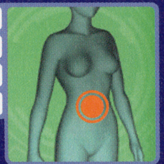
ランク	スコア
C	3300 未満
B	3300 ～ 4199
A	4200 ～ 4799
S	4800 ～ 5099
XS	5100 以上

Episode GHP

5-1

Data

[患　部] 胃
[バイタル] 80(99)
[手術時間] 06:00:00
[超執刀] 使用可能



優秀な人材を集め、超一流の医師へ養成する機関・GHPの局長が見学するなか、腫瘍の摘出処置を行なう。血だまりの発生回数に注意して高ランク獲得を目指そう。

The patient's Life is in your hands !

1 切開　E・N 05:57:88　H 05:58:55
腹部を消毒して切開(切開→P34)

2 胃の治療1　E・N 05:19:21　H 05:32:22
血だまり×3を吸引(血だまり→P34)

3 図アのあ、い、うの腫瘍を露出させる
(腫瘍→P37)

4 図アのあ、いの腫瘍の組織液を吸引し、ガイドラインに沿って患部を切開(腫瘍→P37)

5 切開した患部を除去し、追加トレイにある人工膜を切除痕×2に乗せて定着させる(腫瘍→P37)

6 図アのうの腫瘍の組織液を吸引しつつ、腫瘍付近に発生した血だまりも処置(腫瘍→P37)

7 図アのうの腫瘍を切開し、患部を除去したら追加トレイにある人工膜を切除痕に乗せて定着させる
(腫瘍→P37)

8 発生した小腫瘍をすべて焼却し、血だまりを吸引してからレーザー痕を治療(小腫瘍→P38)

9 エコーを選択し、心停止イベントを発生させる

10 胃の治療2　E・N 03:55:55　H 04:21:06
カウンターショックで心拍を復活させる

11 鎮静剤(黒色の液体)を投与して中毒症を沈静化させ、バイタルを30付近まで回復させる
(中毒症→P40、バイタル回復→P33)

12 術野を右に移動させる

13 図アのえの腫瘍周辺に発生した血だまりを吸引し、えの腫瘍を露出させる
(血だまり→P34、腫瘍→P37)

14 図アのえの腫瘍の組織液を吸引し、ガイドラインに沿って患部を切開する(腫瘍→P37)

15 図アのえの腫瘍を除去し、追加トレイにある人工膜を切除痕に乗せて定着させる(腫瘍→P37)

16 発生した小腫瘍をすべて焼却し、周辺の血だまりを吸引してからレーザー痕を治療(小腫瘍→P37)

17 術野を上に移動させる



1
胃の処置を行なっている最中に心停止が発生し、バイタルが低下するため、切開まえのバイタル回復は不要。



3
腫瘍を切開するときにメスの位置がずれていると裂傷が発生してしまう。正確な位置にメスを入れること。



4
血だまりの発生回数をなるべく抑えるように、腫瘍の処置をできるだけ素早く行なっていこう。

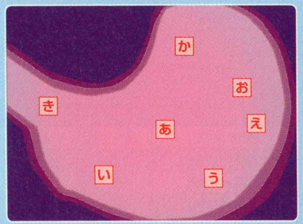


8
小腫瘍の数が難易度で変わり、EASYとNORMALは腫瘍ひとつに対して小腫瘍が2個、HARDは3個になる。



10
これ以降、ランダムで心停止が発生。手術時間を短縮するためにも、カウンターショックは1回で成功させたい。

■図ア腫瘍の発生場所1



左図は胃の治療1、2で発生する腫瘍の場所を示しており、記号はチャートの番号に対応している。